

出演者の皆さまから、収録を終えてのコメント《第2弾》 ※50音表記

秋山菜津子さん

初めてシアターコクーンに立たせていただいたのが、ミュージカル「キレイ」でした。

それも6月の公演だったということは、丸20年経ったんだなと思い、感慨深かったです。新型コロナウイルスの影響で自粛が続く中、今回の企画で劇場に行けること、皆さまにお伝えできることが嬉しかったし、ありがたかったです。

シアターコクーンは、この20年間、何本もの芝居で出演した愛着がある劇場です。制作スタッフの皆さんも活気があり、信頼できる、私にとって大切に特別な“場所”ですね。

麻生久美子さん

収録は、久しぶりにいろいろな人に会うこともできて、とても楽しかったです。歌の方は、いくちゃん（生田絵梨花さん）の歌をずっと聴いていたいと思ってしまいました。そんな方の隣で久々に歌うのは緊張しましたが、楽しかったです。劇場案内は、台本が面白かったので、あとはどんな映像になるのか、楽しみです。

劇場は私にとって特別な場所です。見る側としては刺激のもらえるただただ楽しい場所です。出る時には怖い場所でもあるのですが、ミュージカル「キレイ」で立ったシアターコクーンは、楽しい思い出しかありません。こんなに楽しいと思った舞台は初めてで、そういう意味でも忘れられない場所、キラキラした劇場ですね。

阿部サダヲさん

アクリルボックスの中で何かをやるというのは初めてで、難しかったです。たぶん二度とやることはないだろうなと思いますが、機会を与えていただいてありがたかったですし、こういう形で発信できる、というのが嬉しかったです。この時期だからこそその豪華な出演陣でしたし。

僕自身が劇場から活動を始めているので、劇場が一番大切にしているところです。お客さんがいてこそ劇場ではありますが、いなくても、手法はあるんだなと思って嬉しかったです。特にシアターコクーンは特別で、初めて大劇場に立ったのも、大劇場で一番立っているのもここなので、思い入れもありますし、好きな劇場です。

生田絵梨花さん

今回の収録では、劇場に来るのも、ミュージカル「キレイ」のメンバーに会うのも久しぶりで、人と会うというだけでこれだけ感動するんだ！というくらい心動かされました。「キレイ」は思い出の詰まった作品なので、歌いながらウルッと来てしまいました。

劇場は、エネルギーを補充してくれる場所です。演じる時にはものすごいエネルギーを発散するし、お客さんとして来る時にはモチベーションが高まるし、自分にとって生きがいだなと思います。6年前にシアターコクーンで「太陽 2068」を観たときから、いつかこんな大きな劇場に立ってみたい！と思っていたので、実現したときは嬉しかったです。今回の収録で劇場に着いた時も、久々に戻ってこられたのが嬉しくて、楽屋口から中に入るまで全部ムービーに撮っちゃいました（笑）。

神木隆之介さん

今回の収録、楽しすぎましたね。楽屋口から入ったとき、ミュージカル「キレイ」の公演をやっていた頃の愛おしい記憶がよみがえりました。アクリルボックスの中で歌うというのもおもしろかったですが、歌ってみるとみんなで楽しく歌えて、アクリルがあるかないかなんてあんまり関係ないんだらうな、と思いました。

シアターコクーンは、お客さんとの距離が近くて、一心同体で楽しめる劇場という印象です。舞台上の臨場感も伝わるし、お客さんの緊張感も僕らにはひしひしと伝わってくる。その緊張感、臨場感や楽しさが増していき、相乗効果が生まれやすいような、アットホームで素敵な劇場だと思います。

小池徹平さん

まず、久々に舞台に立てたという喜びを感じました。大好きな松尾カンパニー、大人計画のチームとも一緒にでき、もう二度とできないんじゃないかという貴重な経験で、思ったより興奮して、すごく楽しかったです。やはり舞台が好きなんだなと思いました。

シアターコクーンは、初舞台の劇場であったり、ミュージカル「キレイ」で2014年と去年出させていただいたり、すごく思い出がある劇場です。自分の中でも転機になるステージばかりで、来るたびごとに自分の立場を見直せる、自分が変わっていくのが確認できる、感慨深い場所です。

多部未華子さん

収録では、久しぶりに歌い、初めての経験もたくさんあったので、今年一番緊張しました。今このような状況の中、演劇に愛のある人たちが集まっての素敵な企画に私も参加できることが、嬉しかったです。出演される方も豪華で、こういう時だからこそできることもあるんだなど、楽しみにしていました。

劇場は、いろいろな作品を観に行ったり、自分も立っていたりと、“勉強する場所”というイメージです。観に行く時も、出る時も毎回背筋が伸びる場所だと思います。その中でもシアターコクーンでは松尾さんの作品でお世話になっているので、私にとっては“常に松尾さんがいる場所”です。

松たか子さん

舞台に立っていたら、お芝居で出た時のことを思い出して少しセンチメンタルにもなりましたが、今ここに立っていただけることがめちゃくちゃ幸せだと思いました。お客様はいないのですが、松尾さんというすごいお客様が一人、劇場スタッフもいて、幸せでした。

シアターコクーンに最初に来たのはたぶん中学生の頃で、当時芸術監督だった串田和美さんとお会いしたのを覚えています。子供のころから歌舞伎座の次によく来ていた劇場で、まさか自分が立てるとは思わなかったし、“こういうお芝居をやる劇場があるんだな”と世界を広げてくれた、思い出深い場所です。

村杉蟬之介さん

リハーサルの時から、アクリルボックスの中は鏡に向かって歌っているのではないかと、いうくらい自分の姿が映っていて、自分と目を合わせないのに必死でした（笑）。今回、劇場で舞台や芝居を元気にする企画に参加できて光栄で、お声掛けいただいたのが嬉しかったです。

劇場は自分にとってパワースポットのように身体も心も元気になれる場所なんですよ。僕にとってシアターコクーンは、初演の「キレイ」で初めて立たせてもらって以来、岩松了さん・蜷川幸雄さんに鍛えられた場所なので、初舞台の本多劇場がお母さんだとしたら、シアターコクーンはお父さん、くらい身近な、身内的な存在の劇場です。